北海道
日伊協会会報

VOL. 66号　2021年10月
発行　北海道日伊協会
事務局 札幌市中央区大通西14丁目3番地
みふじビル　電話 090-1306-1974
メール conhkd@aig-hokkaido.com

ロックダウンのミラノ 一家でコロナ感染

この秋、新型コロナとの戦いは新たな局面に立たされたようです。まず感染「第 5 波」がほぼ沈静化、混乱が続いたワクチン接種も、2回目完了者が欧米並みに人口比60%を超え、政府は10月から緊急事態宣言を解除し酒類提供も解禁しました。今後、「ワクチン・検査パッケージ」の活用で日常生活の回復を目指す方向ですが、一足早くイタリアでコロナに一家で感染し、感染者差別やロックダウン、ワクチン接種者と未接種者を分離するグリーンパスに縛られる生活を体験したミラノ在住のオペラ歌手西雪文子さんに体験記を寄せていただきました。

西雪　文子さんが体験記

3回目の封鎖　乗り越えたその時に

店中の客 さっと避ける

今思い起こせばその日は突然やって来た様に思います。忘れもしない2020年2月23日、武漢で新型肺炎が流行り、どうやらイタリアにも上陸したらしいと言うニュースが出回る中、カーニバルの準備のために娘と仮装衣装を買いにミラノ市街のお店に入った時のことでした。店中の客が私たちを見てさっと避けたのです。中にはマフラーでこれ見よがしに口を隠す人もいました。スーパーマーケットでも私たちを避けて歩く人達を見て、これは東洋人にとってウイルスの危険以上に大変な事態になってしまったと思いました。ミラノの街の様子をビデオに撮っていた中国人に向かって、意地悪な顔で「チャオ！コロナウイルス！」と言って馬鹿にしているミラノ交通局の職員の映像が、イタリア中の SNS で大変話題となりました。24 年イタリアで暮らして初めて感じた人種差別でした。

その後「コロナピザ」と感染者が多く出るイタリアを馬鹿にしたコマーシャルがフランスで流れ、フランスに憤りを感じたイタリア国民は我が身を反省したのか、その騒動以降、東洋人に対する差別的な態度も少なくなったように感じました。

翌日 24 日から学校が突然休校となり、学生も教師も全員私物を学校に残したまま立ち入り禁止となり、学校全体が大混乱に。あっという間に感染者数、死亡者数が増え、遂にその 2 週間後には完全ロックダウンと言う前代未聞の非常事態に突入しました。マスクをし慣れない国民がマスクをし、スキンシップで挨拶し愛情表現をしていた国民が握手もしなくなり、家族親戚を大切にする国民が週末に家族で集まることも禁止され、誰もが全く予想することのなかった世の中と変わって行ったのでした。殆どの店は営業休止となり、入場制限のあるスーパーに入るにも最

入場制限のスーパーの前にできた長蛇の行列

カメとの散歩には罰金

低で 20 分、最長で 2 時間待ちになりました。

不要不急の外出は禁止、でも犬の散歩は許されていたので、犬のおもちゃを持って外に出る人や、ペットの亀や鶏にリードをつけて散歩に連れていったところ罰金を払わされた等、この国らしいエピソードが色々生まれました。

ミラノの空気が山の空気と同じほどきれいになり、ベネチアの海水が綺麗になり生き物が戻ってきたり、工場排水で灰色だった川の水が工場の操業停止で透明な水に戻ったりと、コロナウィルスとは地球の意思から生まれたのではないかと思うような出来事も多々ありました。

自宅隔離　テレビで五輪の札幌を楽しむ

我が家にコロナがやってきた！

2020 年 3 月のロックダウン以降、2 回のロックダウンを乗り越え、屋外でのマスク着用義務が終わりワクチン接種率も高まってきた頃、私たち一家は家族全員コロナに感染してしまいました。24 年間育った日本は「痒いところに手が届く国」。一方イタリアは「痒いところどころか痛い所にも手が届かないサバイバルな国」だと感じています。

コロナを通じてもサバイバル王国イタリアの本領発揮エピソードがたくさん生まれました。家族 3 人揃って発熱し、まずしなくてはならない事は PCR 検査。その申し込みのために国の保健機関に予約をしなくてはいけないのですが、その予約をするには保健所に直接ではなく、ホームドクターを介する仕組みになっています。国民保険に加入していたら誰にもいるはずのホームドクターなのですが、私たちのホームドクターは何の連絡もなしに定年退職してしまっていて、ホームドクター不在という信じ難い状況を緊急事態時に知らされたのです！高熱で朦朧とする中ホームドクター探しで大騒ぎの後、幸か不幸か 10 歳の娘も発熱したので、娘のホームドクターである小児科医と連絡を取り、私たち両親の PCR 検査の申し込みも特別に保健所にお願いしてもらい、どうにか自宅訪問検査の予約をする事が出来ました。

とにかく発熱中は外出禁止で、もし何かあったとしても救急車は呼べない、救急病院にも行ってはいけない規則で、コロナ患者が頼れるのはコロナ患者の緊急時専用の電話番号のみです。日本のように食事を届けてくれるなどと言うサービスもなく、家族3人自宅隔離となってしまっているのに、ホームドクターは薬の処方箋を取りに来るようにと言う。2 回目の PCR 検査は車に乗ってドライブスルー検査場まで来るようにと言われ、まだ体調がすぐれないと説明しても、「運転できませんか？」と聞かれる。もうろうフラフラとなるコロナウィルスの症状など知らないのではないかと疑うほどの対応でした。

グリーンパスをスマホで確認

その一方で、外出禁止は速攻でロンバルディア州からメールでその旨を書いた文書が届きました。とにかく国の機関からの連絡は PCR 検査の予約に関してと、その結果のみで、コロナ患者の体調を気遣うようなケアの連絡など一回もありませんでした。

ロックダウンが起きてから色々な宅配サービスが発展して便利になっていたので、食料品などの日用品の調達には不自由しませんでしたが、至急必要な薬や宅配では売ってないような物に関しては、友人にお願いして持ってきてもらうしかありませんでした。

2回目のPCR検査で再び陽性となりましたが、かなり症状がおさまって普段通りの生活とまではいかなくとも動けるようになり、家族に少し笑顔が戻ってきた頃、3週間目の自宅隔離へと突入しました。丁度オリンピックが始まる頃と重なり、思いがけず家族3人揃って平日にオリンピック観戦をし、札幌コースの競歩で大活躍してくれたイタリアの選手達のおかげで、札幌の街をゆっくり楽しむことができたのは嬉しい出来事でした。3回目の PCR 検査で私と娘が陰性となりその日で自宅隔離は終了となり、その知らせと共にワクチン未接種者の私にも大不幸中の幸いとしてグリーンパスが送られてきました。

未接種者に圧力　2 日毎に PCR 検査

グリーンパス取得は義務？

コロナから回復したことによって私達一家はグリーンパスを手に入れました。その 3 日後から、グリーンパスを携帯しないものは、イタリア中のレストラン内での飲食はできない、博物館美術館へ入場禁止、スポーツジムの使用禁止、大学へ立ち入り禁止など色々新しいグリーンパスに関する規則が定められました。

そのことによりワクチン接種反対者によるデモ、抗議運動が盛んになりましたが、国のワクチン未接種者への規制はとどまる事なく、今月 15 日から労働者全員に取得義務を課されることになり、ワクチン反対者は 48 時間ごとに PCR 検査を受けなくてはいけないと言う規則が定められました。国としてはワクチン接種は義務ではないと言っていますが、接種しないと仕事もできません。1 回 15 ユーロの PCR 検査を 2 日ごとにすると言う規則について、ほとんどそれは義務に変わりないのではないかと私は不思議に思うのです。知っている人でワクチン接種後にコロナウィルスに感染した人も何人もいるので、ワクチンさえ打っていれば安全で、以前のように自由に生活できると思っている人達が増えている事に不安を感じます。

未接種者への規制強化を怒るグリーンパス反対デモ

私はソプラノ歌手で音楽スタジオの経営もしております。イタリアの音楽界は、以前と比べると決して良い状況ではありませんが、少しづつ活気は戻って来ています。不自由を感じながら、コロナと共存しながらも前向きに再開しています。芸術の都イタリアにたくさんの方が訪れる日を、そして日本とイタリアを自由に行き来できる日が一日も早く戻ってくることを心から願っております！

（父西雪弘光さんのペア会員、ミラノ在住、ソプラノ歌手、A.CLA.MI＝Accademia Musicale Classica di Milano 副代表）。

Kitara 専属オルガニストにプロカッチーニ さん

第 22 代札幌コンサートホール専属オルガニストとして、ニコラ・プロカッチーニさん Nicola Procaccini（**写真**）が 10 月 11 日就任しました。イタリア生まれ、イタリア国立フェルモ音楽院でチェンバロを、ハンブルク音楽演劇大学を経てパリ国立高等音楽院でオルガンを学ぶ 26 歳。第 5 回アガティ―トロンチ国際オルガンコンクール第 2 位（2017 年）、第 5 回ブクステフーデ国際オルガンコンクール優勝（18 年）を飾り、ドイツ、イタリアの教会、世界各国の国際古楽フェスティバルなど多数のコンサートに出演し、チェンバロや通奏低音の奏者としても活躍しています。契約期間は来年 8 月 31 日まで。イタリア人としては 18 代目 ダヴィデ・マリアーノさん Davide Mariano に次いで 2 人目。

ニコラ・プロカッチーニ　デビューリサイタル

さっそくデビューリサイタルが以下のとおり開かれます。

11 月 12 日（金）　開場 18:30　開演 19:00　札幌コンサートホール　大ホール

プログラム　J.S.バッハ：トッカータ、アダージョとフーガ　ハ長調　BWV564
デュリュフレ：アランの名による前奏曲とフーガ　作品 7　ほか

全席指定（税込）　一般：1,000 円、U25：500 円　　Kitara チケットセンター電話011・520・1234 などで

谷崎オペラを舞台に
『卍』の難役に挑む

岡元　敦司

私が参加している日本文学作品のオペラ化を目指す「Manji プロジェクト」は、 谷崎潤一郎原作のオペラ『Manji』全三幕を 12 月 8 日にめぐろパーシモン大ホールで公演する。私は主人公の園子の相手役光子の男である綿貫を演じる。

Manji プロジェクトは、作曲家の西澤健一、歌手の岡元敦司、新宮由理が中心になって結成された。日本文学の中で、まずは台本を手がける西澤が注目していた谷崎作品から、『卍』と『瘋癲老人日記』を各2時間以内の作品にまとめて発表した。最終的には『細雪』に着手し、『谷崎三部作』とすることになっている。

作曲家の西澤健一はヨーロッパでの評価も高く、現代音楽をリードする異色な経歴を持つ。彼の作る美しい旋律はまさに和の美しさに触れた耽美を表現している。

『卍』はこれまでに 2 回公演しているが、全て同じ役者で公演している。この物語の話し手園子には高い歌唱力に定評のある津山恵、その相手役光子には妖艶なメゾ役で評価の高い新宮由理、園子の夫、孝太郎には“フォレスタ”で人気の高い横山慎吾、そして難しい役所の綿貫は、私が演ずる。様々なオペラ公演で高く評価を得ている演出家、三浦安浩が初演出する。

単に愛欲に乱れた情事を描くのではなく、オペラがこれまで官能的な美を伝えてきたように、私たちの“美しさ”を求める探究心の中に、まるでモンテヴェルディの『ポッペアの戴冠』のような美しい世界観を呼び起こしたい想いで、今回はフルオーケストラで再演の準備を進めている。

谷崎潤一郎原作のオペラ『Manji』のポスター

谷崎潤一郎といえば、女性の美とエロチズムを描いた作家として、明治末期から昭和にかけて活躍した作家である。イタリアにおいても谷崎作品は翻訳されており、1960 年ごろから須賀敦子夫妻らの活動によって、ほとんどの作品がイタリアで翻訳出版されている。初めてイタリアに紹介された谷崎作品は『愛すればこそ！』(1921 年)でこの作品は 1929 年ロレンツォ・ジーリによって『Io l’amo!』として翻訳され、谷崎作品の魅力は今もなお褪せることなく、芸術文学として愛されている。

谷崎文学の中でも『卍』は映画化が進み、有名な作品である。42 歳の時の作品で、芥川が自殺した翌年に発表され、同性愛や谷崎独自のマゾヒズムが潜んでいる。

ヨーロッパにおいてこのシンボルはファシズムの象徴であることから、本来の古代太陽の象徴である鉤十字であることや、本来谷崎が創造したであろう“卍巴”(4つの鍵が互いに追い入って乱れること)からかけ離れた印象を与えてしまう。

そこでイタリアでは、リディア・オリグリアが『仏陀の十字架』”La croce buddista”とイタリア語題名に訳し、本文を翻訳し 1982 年に出版した。退廃的なエロティシズムと社会の良識と背馳したフェティシズムが四人

の主人公にそれぞれ結びつき、複雑な網の中で乱れていく男女の世界を描いたこの作品は、美を求め続けたヨーロッパの耽美主義作品として迎えられ、『サロメ』に匹敵する傑作との見方をされている。

リディア・オリグリア訳
『仏陀の十字架』
”La croce buddista”

エステティズモ（耽美主義）について、ルキーノ・ヴィスコンティは“美のための美を追求する”ことと提唱したが、谷崎の想像する“卍巴”はまるでキリストの掛けられた4つの十字架が放つ光のように交差し、私たちを深く重層的な錯乱状態に陥れる。その美しい光は、低俗や無償に陥ることなく、底知れぬ空想と社会的義務が交錯する境界領域に踏み込むことで、さらなる美の境地に誘われることになる。

まるでダンテのパラディーゾにおけるゾディアック（十二宮図）を超えた十層目のエンピレオ(究極の天国“至高天”)に向かうように、西洋と和の思考を超えて、この四人の愛欲は崇高な菩薩となった光子に導かれていくように感じる。

弁護士と結婚している園子は、退屈しのぎに絵画教室に通い、そこで年下の光子と出会う。彼女と園子の間にはお互い惹かれ合う魅力があり、自然と関係をもってしまう。しかし、年上の女性の夫(孝太郎)への嫉妬、光子の男（綿貫）の存在を知ったことで、関係は複雑になっていく。その後の悲惨な出来事は、園子が物語をインタビューする無名の男に生の声で語られる。

私は二作目のオペラ『瘋癲老人日記』で足に性癖を持っている役を演じたが、谷崎作品にはどこか“愚”に値するキャラクターが軸となっていることがある。私の演じる綿貫は四人の想いの方向性とはコントラストをとった役どころであるが、愛の形ゆえに暴力的で、皮肉であり、常に不純にねじ曲がってしまう男の姿は、谷崎自らを重ね合わせたような、歪んだ人間性を思わせる。私は歌手活動も人生半ばとなってきたところで、舞台上で人間のあらゆる面をこの一瞬の音楽に表せるような歌手として、さらなる境地に立たされていると感じている。

ダンテとベアトリーチェがエンピレオを観想する様子（天国編−第31歌）
ギュスターヴ・ドレの作画

（会員、北翔大学教育文化学部教育学科音楽コース）

オペラ『Manji』

2021 年 12 月 8 日（水）
めぐろパーシモン大ホール
谷崎潤一郎原作　オペラ『Manji』 全三幕
台本・作曲；西澤健一
演出；三浦安浩
出演；新宮由理、津山恵、横山慎吾、岡元敦司
卍プロジェクトオーケストラ
チケットぴあ　お問い合わせは以下の QR コードまで。

Manji プロジェクトでは協賛していただける団体・個人の方を集っています。どうぞこの機会に会場まで足を運んでいただけましたら幸いです。お問い合わせは

岡元 nomunosensei@gmail.com **まで。**

https://www.manjiproject.com

写真の町・東川で
安田侃 彫刻展 開く

9 月に旭川市のギャラリーと写真の町東川町で同時に安田侃彫刻展が開かれました。

東川町には 2014 年に開校した小学校に《帰門》と《意心帰》、今年リニューアルされた文化ギャラリーに《天秘》と、三点の安田侃彫刻が設置されています。それらを記念し、複合交流施設せんとぴゅあの内外で 19 点の大小の作品が展示されました（9 月 1 日～26 日）

東川小学校と接続する地域交流センター内の《意心帰》。窓越しに大雪山を見ながら、彫刻に触れ、よじ登って放課後を過ごす児童

せんとぴゅあ前の芝生広場は、常に人が集まる、まさにピアッツァ（広場）。それを見守るように展示されたホワイトブロンズの《アニマ》

せんとぴゅあ内の図書館に《アニマ》と《生誕》シリーズが展示された。イタリア語でアニマは「魂」、「生誕」と一緒に展示することで「生と死」を表す。イタリア各地の展覧会のポスターも掲出、目を引いた

せんとぴゅあ内のギャラリーに展示された《天秘》、《意心帰》などの作品

東川小学校の校門として児童を迎える《帰門》

町に彫刻ー誇りと自信

松岡町長はオープニングの挨拶で、昔の「ミュンヘン・札幌・ミルウォーキー」というビール CM の合言葉にかけて「美唄・東京・東川だ」と自慢をしたい、と語り、次のように続けました。「いずれも安田侃の彫刻がある。コロナのようなこういう中だからこそ、芸術作品を生かして、町の価値を高めていくということが何より大事なことではないか。そして、若い人たちがその価値を自信と誇りをもって、『おらの町にはこれがあるんだ』と語ることが地域を元気にしていく大きなエネルギーになる。子どもたちが東京に行った、美唄市に行った時、『あ、うちにもある』とこう言って感動してくれる日が来るだろうと思っている」。

この言葉ひとつとっても、東川町の人気やなぜ移住者が増えているのかが垣間見えます。

（理事、NPO 法人安田侃彫刻美術館
アルテピアッツァ美唄 理事 安田琢）

写真文化ギャラリーの《天秘》

旭川では ギャラリーシーズ展

旭川市では、安田侃の《天秘》を市に寄贈し旭川駅に設置した彫刻ファンド市民の会のメンバーでもある久木佐知子さんが、経営するギャラリーシーズ 30 周年の特別企画として「安田侃の世界～永遠に～」を開きました＝**写真㊤と㊥**＝（9 月 1 日～27 日）

代表作《意心帰》《天秘》などブロンズや大理石の作品 20 点が展示され、久木さんは、「侃さんから、目をつぶって作品に触れてください。触ると自分の心が見えてくる、とメッセージをいただいています」と入場者に呼びかけていました。

旭川駅ロビーに立つ《天秘》

ナポリと色丹島

イタリアとロシア極東の風景画について

谷古宇　尚

私が北海道に職を得たのはもう二昔前、2000 年のことである。旭川で働きはじめた。イタリア美術史を専門としているが、折角だから地元ネタを開発したいと周囲を見回したところ、道内各地で活躍する美術館の学芸員たちの調査・研究の蓄積があり、何をすべきか少しとまどった。それまで日本の美術ではなく、外国の美術を勉強してきたのだから、この際、北海道から目と鼻の先のロシアに行ってみようと考えた。

ロシアの画家と酒酌み交わす

元々、知らない土地のことには非常に関心がある。翌年うまく調査費を得ることができ、ウラジオストクからハバロフスク、ユジノサハリンスクへと旅行し、それぞれの町に 3～4 日間ずつ滞在した。イタリアで聖堂や修道院、美術館や考古学遺跡を見学するのと異なり、画家や彫刻家のアトリエを訪ねて作品を見せてもらい、お酒を酌み交わすのも楽しい。またウォッカだけでなく、当時はロシアでふつうに流通していたジョージア（グルジア）産のワインやウクライナ産のシャンパンも手頃な値段でかなり美味しいことがわかった。イタリアのワインやスプマンテの十分代わりになる。

宿泊したユジノサハリンスクのホテルでふと懐かしい気持ちにとらわれた。よく見ると、浴室の壁の上方に、やや大きめの円筒形の物体が据えられている。これはイタリアで見慣れたリスカルダバーニョ（給湯器 riscaldabagno、辞書で見ると ri-のない scaldabagno の方が一般的らしい）ではないか、と少し驚いた。裏を見てメーカーを確かめると、やはりイタリア製だった。考えてみれば、イタリアは共産党が強かったし、ロシアとの関係が深いのも当然かもしれない、と思った。私の留学時代、ニルデ・ヨッティが下院議長を務めていて、この人があのイタリア共産党の指導者パルミーロ・トリアッティの伴侶だった人かと、いつも感慨を覚えながらその毅然とした姿をテレビで見ていた。

ムッソリーニがサロに移り、ファシズム政権も先が見えてきたころ、トリアッティは亡命生活を送っていたモスクワから凱旋帰国する。27 歳も年の離れた２人は、憲法制定議会の議場であったモンテチトリオ宮のエレベーターで衝撃的に出会うのだが、極東の島で遭遇したリスカルダバーニョは、こうしたイタリアとソ連／ロシアが関係する歴史的事件を身近に感じさせてくれることとなった。

イタリア風景を描いたロシア画家

芸術の先進国であるイタリアは、世界中に芸術家を派遣してきた。例えば、明治維新後の日本では 1876（明治 9）年、初めての美術教育機関となる工部美術学校に 3 人のイタリア人が赴任している。いわゆる「お雇い外国人」で、画家アントニオ・フォンタネージ、彫刻家ヴィンチェンツォ・ラグーザ、建築家ヴィンチェンツォ・カッペッレッティが美術の主要な 3 分野をカバーしていたと言える。ロシアではすでに 15 世紀後半、ボローニャ出身のアリストーテレ・フィオラヴァンティなる建築家がモスクワのクレムリンにあるウスペンスキー大聖堂の建造に携わった。

逆にイタリアへは、若き芸術家たちが修業の総まとめとして訪れ、場合によっては長年滞在し、制作を続けることとなった。18 世紀終わりから 19 世紀にかけて、フョードル・マトヴェーエフからシリヴェストル・シェドリン、アレクサンドル・イヴァーノフ、イヴァン・アイヴァゾフスキーまで、ロシア近代美術を代表する画家たちが、イタリアの名所を描き出している。ローマのサン・ピエトロ聖堂やサンタンジェロ城、近郊のアッピア街道やカステッリ・ロマーニ、ナポリ周辺ではポジッリポ、ヴェズヴィオ山、カプリ島、アマルフィなど、私たちの知っている見慣れた情景は、こうしたロシアの画家の目を通して描かれた風景画と似ている。

ヨーロッパになった南樺太

さて、私は 1960 年代以降のロシア極東の風景画

図 1―オレグ・ロシャコフ《秋の最初の日》1982 年、モスクワ、トレチャコフ美術館

図 2―アレクサンドル・イヴァーノフ《ポジッリポの道からのナポリの眺め》1943-48 年？、サンクト・ペテルブルグ、ロシア美術館

を見ているうちに、不思議なことに気がついた。かつて日本領だった南樺太が、ソ連の画家たちに描かれ続けることによって、日本ではなくヨーロッパの風景に見えてきてしまうことであった。街並みだけでなく自然も、樺太はサハリンになってしまったのである。日本時代の樺太の絵は、それほど多くは残されていない。木村捷司は樺太を描いたもっとも重要な画家であるが、やはり日本統治下の島をそれらしく描き出していたように思われる。それは技法の問題もあるだろう。しかしながら日本の画家が油彩を用い、洋画として仕上げたとしても、その描き出す風景は日本的なものになってしまうのである。

ソ連画家が描いた南千島

もう一点、興味深かったことは、かなり多くのソ連の画家が南千島（日本にとっての北方領土）を訪れていることだった。1966 年から 1991 年まで「シコタン・グループ」の画家たちがほぼ毎年、色丹島を訪れて、夏の数カ月を島で過ごしていた。リーダーはオレグ・ロシャコフというモスクワのスリコフ美術アカデミー出身のエリートで、卒業後すぐに教鞭を執ったウラジオストクの美術学校の同世代の教え子たちを中心に、仲間を集めていた。

色丹島には東洋一と呼ばれた水産加工場があり、夏の漁繁期にはソ連各地から数千人もの若い女性労働者が出稼ぎに来た。彼女たちの肖像も数多く残され、やはり若かった画家たちとの交流が偲ばれる。いまは寂れたイメージのある色丹島も、さぞ賑やかだったことだろう。ロシャコフによれば、色丹島ほど素晴らしい島はないらしい。百メートル歩くたびに、島は違った美しさを見せてくれる。また、あっという間の気象の変化が、劇的な色取りを添える。

色丹島の美にナポリを見る

そうした中で、画家たちが特に好んで繰り返し描いた場所が、マロクリリスコエ（斜古丹）湾である（図 1）。入江の向こうには、国後島の爺爺岳の独特な山容が見える。爺爺岳は二重式火山で、カルデラを囲む外輪山から中央火口丘が小さく突き出している。この湾と火山の組み合わせは、イタリアのナポリ湾とヴェズヴィオ山のそれと比べることができる（**図 2**）。ヴェズヴィオ山は外輪山の尾根が大きく欠けるため、ナポリの方から眺めると二つの頂上があるように見えるが、爺爺岳と同じく二重式火山である。ロシャコフの作品には、画面の中ほど、左端にトレズベツ岬の断崖が描き込まれている。断崖は、19 世紀のロシアの画家たちも好んで描いたカプリ島やソレント半島を思い起こさせる。ナポリは 17 世紀来、ヨーロッパのグランド・ツアーの目的地だった。それに対してソ連の画家たちは、旅の進路を遥か東に定め、アジア国家である日本の目の前で、地中海になぞらえられるような牧歌的な風景を見出していたのである。

（理事、北海道大学大学院文学研究院教授）

事務局 13 年　ブライトさんに感謝状

北海道日伊協会は、事務局として13年間尽力された㈱ブライトサッポロ様（山田悦子代表）に、感謝状の盾を贈ります。文案は以下の通りです、盾が出来上がり次第、贈呈します。

感 謝 状

株式会社　ブライトサッポロ　様

法人会員である貴社は、北海道日伊協会の事務局として 13 年間にわたり尽力されました。協会はこの間、イタリア大使を迎えた創立 40 周年記念事業、伊語教室の再建、サローネ・ディタリア随時開催などに取り組みましたが、専任者のいない中で、文書の作成、発送、連絡調整にあたり、ビルを共にした伊語教室も運営・教室管理まで引き受け、多くのトラブルに対処してくれました。さらに開放的な事務所ロビーは、イタリアを愛する会員や来訪者のオアシスでした。このような事務局は長く記憶されるところであり、金一封を添えて感謝状を贈ります。

2021 年 10 月　　北海道日伊協会　会長　三部安紀子

会 報　到 着

■名古屋日伊協会会報第424号

姉妹都市トリノとの文化、学術交流の報告と案内。オペラの歴史、イタリア美術事情の連載。日伊オンライン講座は桜、着物、茶道がテーマ. 料理例会への誘いなど。

■新潟イタリア協会　第20号

ベルヴェルシ会長の巻頭連載はシドッチッチの屋久島にある教会、東京・小石川の墓を紹介、聖母像「親指のマリア」をもちこみ、鎖国時代の日本に欧州の知識、技術を教えた功績を書く。イタリア各地の紹介も

ブライトさんの新ビル入り口

前事務局を担当していたブライトサッポロさんは、事務所とスタジオを札幌市中央区大通東 3 丁目トルチュビル5階に移転しました。

今後も伊語教室のスペースをスポットでお借りするほか、会議室、サローネ会場にも使わせていただくなど、お付き合いは続きます。

「氏家記念こどもクリニック」の大きな看板のあるビルで、東向きの入り口に、旧事務所でおなじみの手書き立て看板、エレベーターホールの安田侃さんの大理石彫刻《意心帰》が迎えてくれます。

編集後記　コロナ禍に覆われて暑かった夏。オリパラ選手たちの躍動の中でも、イタリア勢の快挙の連続に目を見張りました。母国でも予想外だったようで、イタリアの記者はかつてのヒット曲をもじって「我らの人生最高の五輪」と手放しで歓喜▼その頃ミラノでは、会員の西雪文子さん一家がコロナ感染に見舞われる非常事態。“戦記”を書いていただきました▼オンラインサローネは第 4 回がこの会報が発行される頃、10 月 19 日に開かれます。テーマは、メディチ家、ダンテと神曲、フィレンツェの 3 大巨匠に続いて、今回イタリアのお菓子。ローマから甘い解説が届きます。日伊両国ともに人生最高の日常が戻るよう祈りましょう（金子）